



# 過去から未来へ



平成26年7月  
ホワイトホース市の  
中高生が  
牛久へ

## 30年来の交流

平成27年7月  
ホワイトホース市への  
青少年派遣団



再会した小笠原さんとジャッキーさん▶

両市の姉妹都市提携は、科学万博つくばが開催された1985年。これまで牛久市からは19回、ホワイトホース市からは16回、青少年団が派遣された。昨年派遣事業に参加した小笠原悠梨花さん(高2)は2歳の頃、ジャッキーさんをホストファミリーとして受け入れた。その後もホストファミリーを経験し、いつし

## カナダ・ホワイトホース市

姉妹都市歴30年

か自分もホワイトホースに行きたいとの思いが芽生えた。そしてついに昨年、15年振りに再会したジャッキーさんは2児の母となっていた。会った瞬間に涙があふれた。小笠原さんは言う「この姉妹都市交流は国を超えた固い絆を作ってくれる」。

ファミリーを経験した只野さんは、一緒に折り紙をしたり、「かつぱ音頭を踊ったり、楽しい思い出としてよく覚えているといふ。そのような原体験から、いつしか海外で働きたいという思いを抱き、市内の幼稚園で勤務した後、昨年9月にモンゴルに羽ばたいた。只野さんは言う「どの国に行っても感じるのだが、たとえば言葉や文化が違っても同じ人間受け入れようとする心があれば通じ合える」。



ホワイトホース市



▲左：只野茉莉子さん

平成26年9~10月  
オレンジ市の高校生が  
牛久へ



## 新時代 交流の幕開け

## オーストラリア・オレンジ市

姉妹都市歴25年

昨年、姉妹都市提携25周年を迎えたオーストラリア・オレンジ市。調印以来、牛久市内の3高校の交換青少年団が交流の中心だった。昨年新たな試みとして、インターネットによる交流が始まった。まずオレンジ・アングリカン・グラマースクール(OAGS)から、牛久市立奥野小学校へ各生徒の自己紹介のビデオレターが届いた。その後、同校5年生がインターネット通話「Skyype」でOAGSと通信を始めた。また、OAGSで生徒による初の日本昔話の朗読大会が開催され、インターネットを介して審査員として牛久市職員も参加した。表現豊かに読まれる昔話に感銘を受け、4半世紀前に撒かれた小さな種が実を結んだのを目の当たりにした。

# 人のつながり

## 歴史の趣がかおるまち

イタリア・グレーヴェ・イン・キアンティ市

友好都市歴2年

牛久市は2013年、グレーヴェ・イン・キアンティ市と友好都市提携を結んだ。2周年を迎えたばかりだが、昨年初めて派遣市民団が訪れ友好を深めている。

名産ワインのキアンティ・クラシコは市内のお店で豊富に取り扱われ、牛久駅東口はイタリア産煉瓦と茨城県産ひのきのコラボレーションで新しい景観が創られようとしている。

世界中から人々が集う美しいワインの町グレーヴェ・イン・キアンティと国指定重要文化財シャトーカミヤの歴史を有する牛久文化を大切にし、まちづくりにアイデンティティを盛り込む。この2つのまちの交流はこれからの楽しみである。



右：レガメ(牛久産ワイン)  
左：キアンティ・クラシコ

グレーヴェ・イン・キアンティ市

常陸太田市 色麻町

オレンジ市

右：キュー子ちゃん(牛久市)  
中央：かっぺいくん(色麻町)  
左：キューちゃん(牛久市)



## かっぺのご縁

宮城県・色麻町

親善友好都市歴27年

かっぺが縁結びとなった、宮城県色麻町。親善友好都市の提携は1988年だが、2000年には、「災害時等の相互応援に関する協定書」にも調印し、非常時での協力を約束している。

「かっぺのふるさとまつり」には欠かせないカツパブリ色麻は、依頼を受けた牛久市在住の中島悦子さんが振り付けを担当。この祭りには、約40人の牛久市民もキューちゃんのはつぴを着て隔年で参加している。色麻町からも隔年で牛久市のかっぺ祭りに参加してもらい、祭りを通してかっぺがもたらした機縁を育んでいる。

紅葉に彩られた竜神峡



茨城県・常陸太田市

姉妹都市歴30年

## 今尚鮮やかに

常陸太田市と合併する前の水府村との姉妹都市調印からちょうど30年になる今年、合併後も交流は変わらぬまま。

提携のきっかけとなった、つくば博での茨城パビリオンに映し出された竜神峡。毎年牛久市が主催するツアーには、平均

で1300人程の市民が参加し、紅葉に彩られた竜神峡を堪能している。Wai Waiまつりでは大人気の常陸秋そば、かっぺ祭りではパレードを盛り上げるキレのある踊り。30年を経てもなお、竜神峡の紅葉のごとく色鮮やかな交流が続いている。

平成27年6月  
グレーヴェ・イン・キアンティ市  
への派遣市民団



「かっぺのふるさとまつり」で踊る牛久市民

